

発信力・反応力を育てる指導

須 田 香 織

はじめに

OECD（経済協力開発機構）のPISA調査や、IEA（国際教育到達度評価学会）のTIMSSなどの調査結果を踏まえて検討された平成20年1月中央教育審議会答申に基づいて、今回の学習指導要領が改訂され、平成24年度から本格実施がスタートする。英語科としての大きな変更点といえば、現行（平成23年度現在）の授業数週3時間から週4時間に増加されることが挙げられる。また、これまで「聞くこと」、「話すこと」を重視した指導が行われてきたが、それが今回の改訂では、「書くこと」、「読むこと」も加わり4技能をバランスよく総合的に、そして統合的に（読んで話す、読んで書く、または、聞いて書く、話すといった複数の技能を組み合わせること）指導することが求められている。

また、答申において以下のような課題と改善について示されている。

- ① 思考力・判断力・表現力などを問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題に課題
- ② 読解力で成績分布が拡大しており、その背景には家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣に課題
- ③ 自分への自信の欠如や自らの将来への不安、体力の低下といった課題

これらの課題を踏まえて、7つの基本的な考え方として各学校段階や各教科等にわたる学習指導要領の改善の方向性が示された。その中の『思考力・判断力・表現力等の育成』については、観察・実験、レポートの作成、論述など知識・技能の活用を図る学習活動を発達段階に応じて充実させるとともに、これらの学習活動の基盤となる言語に関する能力の育成のために、小学校低・中学年の国語科において、音読・暗唱、漢字の読み書きなど基本的な力を定着させた上で、各教科において、記録、要約、説明、論述といった学習活動に取り組む必要があると指摘した。

外国語科の改訂に当たっては、4つの基本方針に基づいて改善を図った。その中でも、今回、注目したのは以下の2つである。

- 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどを結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導を充実する。
- 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。

これらの内容を分かりやすくまとめると、以下ようになる。

- ①考えを発信する力
- ②単語や文を活用する力
- ③まとまりのある一貫した文を書く力
- ④受信から得た情報・知識を自分の体験や考えと結びつけて発信する力
- ⑤文法指導と言語活動の一体化
- ⑥語彙数の充実化を目指し、コミュニケーションが内容的に充実したものとなるような指導

つまり、1つ目には①～④に挙げたように生徒に付けさせたい力について述べられており、2つ目には⑤⑥に挙げたような授業の方向性または、教師の指導のあり方が述べられている。言い方を変えれば、1つ目の内容を達成するためには2つ目の内容を充実させることが必要不可欠である。本研究では、この①～⑥を意識した学習内容として、スピーチ活動を中心とした自己表現活動を通して、発信力・反応力を育成する指導法を探ることにした。

1. 研究の仮説と視点

(1) 発信力・反応力とは

既習の文法事項を運用し、まとまりのある一貫した文を用いて自分の身の回りのことを説明したり、事実や過去の体験を述べたり、ある事柄について自分の考えや意見、またはそれに対する自分の気持ちを書いたり話したりする力を発信力と考えた。また、これらの話されたり、書かれたりして発信された情報や知識を受信して、その内容について感想を述べたり意見を言ったり、または質問したりする力を反応力と考えた。反応力の中には、自分が発信した考えや情報について、相手が反応したことにさらに反応する力も含んでいる。これらの基盤となる言語に関する能力の育成のために、音読・暗唱・語彙や基本文を読んだり書いたりといった基礎基本を大事にし、文法指導と言語活動の一体化を目指さなければならない。

(2) 研究の仮説

「発信力・反応力を育てる指導」は、次の視点に立った授業作りによって可能になる。

- 視点① 基礎基本の定着を図る指導方法
- 視点② 生徒自身が発信したいと感じる学習課題の設定（スピーチ活動）
- 視点③ コミュニケーションを内容的に充実させる場の設定

(3) 研究の視点

視点①については、目的を明確にした音読練習、暗唱、語彙や基本文を言って書く活動を取り入れることにした。目的を明確にすることにより、ただ覚えるのではなく、生徒自身がどれだけ覚えているのか確認できることで達成感を味合わせ、モチベーションを上げさせたり、さらに覚えたものを自分の表現活動に生かすという意識をもたせることで基礎基本を活用させることができると考えた。

視点②については、コミュニケーションの基本は、話したい相手がいる、話したいことがあるから話そうと思うことである。それに加え、生徒自身が発信したい（話したい）と感じるトピックや、生徒自身の心が揺さぶられ、葛藤がある学習課題を与えることで、英語を用いて表現する前に、自分の中でしっかりと考えをまとめ、自分自身が自分の考えを知る機会となり、どのように伝えるとより相手に分かってもらえるのかを考え、単語や文を選択する。そのような過程が表現力を育成すると考えた。

視点③については、視点②にも関連する。上でも述べたように、コミュニケーションの基本は、

話したい相手がいて、話したいことがあることである。普段、私たちは、一方的な発信で終わることはなく、発信されたことになんらかの反応をしている。私たちの生活の中には、コミュニケーションは不可欠であり、予測不可能な場合が多い。自分が発信したことに対して様々な反応が考えられる。それらは、相手によっても違うであろうし、同じ人でもその時の気分や興味、知りたい情報などでも変わってくる。私たちは、その都度、相手の反応に応じて、自分がもっている情報から必要なものを選んだり、自分の考えを整理して意見をまとめたり、相手に分かりやすいように言葉や表現を使い分けたりしているのである。上で挙げた基本方針の④「受信から得た情報・知識を自分の体験や考えと結びつけて発信する力」と⑥「語彙数の充実化を目指し、コミュニケーションが内容的に充実したものとなるような指導」に基づいて、チャットなどの即興で行うコミュニケーション活動やスピーチのような時間をかけて自分の考えや意見をまとめたり、自分の体験などを混ぜ合わせたりしたものに対して感想や意見を述べたり、質問したりする活動を入れることで、反応力が育まれると考えた。

2. 研究の実際

(1) 視点① 基礎基本の定着を図る指導方法

単語や基本文を覚えることは、どの英語の授業でも日々行われている。自分のことを表現するときにそれらを覚えている数が多い方が、より自分の言いたいことを伝えやすく、相手が伝えようとしていることも理解しやすくなる。このことは、生徒自身も気づいていることではあるが、なかなか単語や基本文を覚えることができなくて苦労している生徒も少なくはない。単語や基本文を覚え、実際に使ってみると覚えやすくなるが、そのステップの前に覚えたものを書くという目的をもたせることでより、覚えやすくなるのではないかと考えた。1年生の2学期終わりくらいから実施した。初めは、文だけを覚えて書くようにし、慣れてくれば、教科書のダイアローグをペアリーディングした後や一人で音読、暗唱練習をした後に、覚えたものを書かせるようにした。初めは、なかなかできなくても、自分がどのようにすると文を覚えやすいのかわかってきたように思う。人によって情報処理のタイプが分かれており、体を使って覚えるのが得意な生徒(kinesthetic)や聞くのが得意な生徒(auditory)は、何度も言いながらリズムで覚えて書いる場合が多く、目から入る情報を処理するのが得意な生徒(visual)は、その場面を頭の中でイラストにしながら覚え、それらを思い出しながら書いていたり、そのダイアローグが書かれているページ(文字のまま)を思い出しながら書いていた場合が多かった。

(2) 視点② 生徒自身が発信したいと感じる学習課題の設定

3年間を通した表現活動の実際

【1年次】

言語材料	使用場面	内容	工夫・ポイント
be動詞 I am ○○. I'm from ○○	自己紹介 (名前・出身) 発信→受信	オリジナルの自己紹介を書こう！	マッピングをさせ、何を書くのか整理させる。
be動詞 This is ○○. He is ○○. He's from ○○	身近な人の紹介 (名前・出身) 発信→受信	家族、ペット、友達の紹介 似顔やイラストを用いて説明する。	マッピングをさせ、何を書くのか整理させる。
一般動詞 I like ○○. I play...It is..	自己紹介② (好きなことについて) 発信→受信	6文以上の英文を用いてオリジナルの自己紹介を書こう！パート2	自分の好きなこと(人)とその説明、または自分の考え(それについての感想など)を表現させる。

今までの言語材料の活用	会話の継続 発信	教科書の内容を深める。続きのダイアログを考える。	自然な流れの会話になるように意識し、自分の知っている表現を活用させる。
一般動詞 What do you do after school?という問いに対して会話を続ける	普段の自分の行動を紹介・説明 発信・反応	1分間チャット	会話を続けるために3つのことを気をつけさせる。 新情報、質問、反応★1
三人称単数	身近な人の紹介② (好きなもの) 発信→受信	家族、ペット、友達の紹介 その人が好きなものなどの写真や実物を見せて説明する。	b e 動詞のところで行ったものを一般動詞も用いてさせる。
三人称単数	自己紹介③ (自分の好きな人、ものについて) 発信→受信	実は私〇〇なんです (自己紹介)	今まで言っていなかった自分について説明する。(好きなことや得意なものなど)
今までの言語材料の活用	会話の継続 発信・反応	教科書の内容を深める。続きや話の間のダイアログを考える。	自然な流れの会話になるように意識し、自分の知っている表現を活用させる。
What do you do on Sundays?	普段の自分の行動を紹介・説明 発信・反応	1分間チャット	会話を続けるために3つのことを気をつけさせる。 新情報、質問、反応★1
Can I ? Can you?	お願い・許可 発信	スキット作り	どんな場面で使う表現かを考えさせる。
過去形	日記 (過去の事実) 発信	日記を書こう!	
今までの言語材料を活用 学級 (学年・校内) 弁論大会	自分の興味関心のあることを述べる 発信→受信	10文で、自分のことをを話ろう!	トピックは自由。今までに友達に紹介したもの (まったく同じもの) は、不可だが、アレンジしてあればOK

2学期から行う年間の帯活動 (毎時間一人ずつがスピーチを行う)

話し手	今までの言語材料を活用 スピーチ活動	自分のこと、自分の身の回りのことを述べる。 発信・反応	自分の身近な人、好きな人の良さをクラスのみんなに伝えよう!	相手に伝わるように、聞き取ってほしい単語は強く長く発音させ、相手を見てスピーチをさせる。
聞き手	疑問詞 Do you ? Does he?	受信・反応		聞き取れた情報をメモさせる。それをもとに、スピーチの感想を述べさせたり、質問をしたりさせる。

★1：新情報、質問、反応とは

会話を続けるためのコツとして、3年間継続して指導したポイントである。私たちは普段日本語で行っている会話でも、この3つのポイントをうまく組み込んでいる。例えば、以下のように新情報から会話が始まる場合もあれば、質問から始まる場合もある。

- 例1 Aさん：先週の日曜日、新発売のゲーム買ったよ。【新情報】
 Bさん：本当に。【反応】
 やってみてどうだった。【質問】
 Aさん：今までのと全く違って難しいよ。【新情報】
 明日、うちで一緒にやらないか。【質問】

- 例2 Aさん：昨日の『世界不思議発見！探検！』見た。 【質問】
 Bさん：見てないんだ。 【反応】
 昨日は、大学生のお兄ちゃんと夕ご飯を食べに出かけていたんだ。 【新情報】
 Aさん：へえ、いいね。 【反応】
 2人で行ったの。 【質問】
 Bさん：うん。 【反応】
 お母さんたちが旅行に行っていて、昨日は僕たち2人だったから。 【新情報】
 ねえ、『世界不思議発見！探検！』、どこの国の話だったの。 【質問】

【2年次】

言語材料	使用場面	内容	工夫・指導のポイント
不定詞 want to	行ってみたい国紹介 発信	行ってみたい国、やってみ たいことを紹介しよう！	旅行のパンフレットや地図帳、 英語の資料集を手掛かりに行 きたい国、やってみたいこと を書かせる。
不定詞	自分の考えを述べる。 (具体的な解決策を述 べる) 受信・発信	What do we have to do for the problem?	動物保護や自然保護について 書かれた英文を読み、自分た ちにできることを考え、表現 させる。
接続詞	自分の意見を理由をつ けて述べる 発信	秋と言えば、スポーツ？読 書？	聞き手を納得させるために、 理由の中に自分の体験を語ら せる。
	体験をもとに、生活の 中で、自分たちがすべ きことを提案する。 発信・反応	職場体験学習から学んだこ とは何？ そこからクラス全体ででき ることを提案しよう！	総合的な学習の時間に行った 職場体験学習をもとに、何を したか、何を思ったかをスピー チさせる。その経験をもとに、 自分の生活を見直し、自分た ちにできることを考えさせ、 クラスで同じ目標を立てさせ る。
今までの言語材料の活 用 学級(学年・校内)英 語弁論大会	自分の興味関心のある ことを理由や体験を交 えて述べる 発信→受信	15文で自分の意見を語ろう！	トピックは自由。今までに友 達に紹介したもの(まったく 同じもの)は、不可だが、ア レンジしてあればOK

5月から行う年間の帯活動(毎時間一人ずつがスピーチを行う)

話し手	今までの言語材料を活 用 スピーチ活動	自分の興味関心のある ことを述べる。 発信・反応	トピックは自由。 好きな本の紹介、歴史 上の人物について、松 江のこと、家族のこと、 頑張っていること等々	相手に伝わるように、聞き取っ てほしい単語は強く長く発音 させ、相手を見てスピーチを させる。
聞き手	今までの言語材料を活 用 疑問詞、Do you ? Does he?, 過去形、未 来形、助動詞など	受信・反応		聞き取れた情報をメモさせる。 それをもとに、スピーチの感 想を述べさせたり、質問をし たりさせる。

【3年次】

言語材料	使用場面	内 容	工夫・指導のポイント
後置修飾・接触節・関係代名詞	データを活用して、自分の意見・理由を述べる 発信	朝ご飯は、ご飯？パン？どちらがいいの？	資料を与え、自分の意見の裏付けになるものを選び出させる。マッピングなどを用いて、自分の考えや伝える順番を整理させる。 同じ資料を用いても、生徒によって活用方法が異なる。
今までの言語材料の活用 学級（学年・校内）英語弁論大会	自分の興味関心のあることを理由や体験を交えて述べる 発信→受信	15文で自分の意見を語ろう！	トピックは自由。今までに友達に紹介したもの（まったく同じもの）は、不可だが、アレンジしてあればOK

5月から行う年間の帯活動（毎時間一人ずつがスピーチを行う）

話し手	今までの言語材料を活用 スピーチ活動	人から学んだことを受け、自分の生き方を見つめ発表する 発信・反応	『人』から得たこと、学んだこと、言葉、や自分の体験など事実とともに、それに対して自分がどう考えるのか、どんな行動をとったか、またはとりたいのかを述べる。	相手に聞き取って欲しい部分を質問形式にして、聞き手も情報が得やすいようにする。 相手に伝わるように、聞き取ってほしい単語は強く長く発音させ、相手を見てスピーチをさせる。 相手の立場に立った単語や表現を選択させる。
聞き手	今までの言語材料を活用 疑問詞、現在完了形、受身など	受信・反応		質問に答えさせる。 聞き取れた情報をメモさせる。それをもとに、スピーチの感想を述べさせたり、質問をしたりさせる。または、自分の意見を述べ、相手の気持ちを揺さぶるような（考えなければ答えられない）質問をさせる。例えば、Why do you think that? や I have a different idea from yours. What do you think about my idea.

(3) コミュニケーションを内容的に充実させる場の設定

年間を通して行ったのが、毎時間一人ずつ行うスピーチ活動である。1年生の初めの頃は、自分のスピーチ原稿を覚えることで一生懸命で、クラスメイトからの質問に対して答えるのに苦労をした生徒も多くいた。しかしながら、毎時間一人ずつスピーチをして、それについてクラスメイトが質問する形式に慣れると、他の友達が尋ねた質問を次は違う相手に自分がしてみる生徒も出てきた。教師は、既習事項を実際に使って、本当に尋ねたいことを質問するように繰り返し伝えた。そこがなくなってしまうと、時計のある教室で、What time is it now? と聞いたり、友達がテニス部であるのを知っている状況でも、What club are you in? などといった質問が出てしまいがちである。使うことも大事ではあるが、知りたいことがあって尋ねる、その時に学んだ表現を活用できることを最終的な目標とさせなければならないと考える。

そこで、もっとも時間をかけて考えるのが、課題設定である。どんなトピックなら子どもの心が揺さぶられ、子ども達は話したくなるのか、友達の話を知りたいのかを探るのが最も大切

だと考える。次の作品は、生徒の心が揺さぶられた経験をもとに自分が何をどう考えるのかを記したスピーチである。

Become Genuinely Interested In Other People

Do you know the news about the American military bases in Okinawa? This is a problem about the defense of the country. But we still can't find a key to settlement, because people have to many different ideas. I thought that there is an answer in this book of Dale Carnegie's, which I read recently. This book tells us how to influence other people. He says "Become genuinely interested in other people." That phrase strongly impressed

When I was a sixth grader, I was the chairwoman of the committee of broadcasting. We announced to all our students information about school activity, commissions and so on. In the beginning I asked everybody to listen to the broadcast, but nobody heard them because they enjoyed talking with their friends. In the end we made questionnaires to all students, asking what broadcast everyone wants to listen to. We understood that they want to listen to a broadcast of their favorite music. Therefore, we threw in some popular tunes they had been interested in. As a result, everyone started to listen to the broadcast. Next we spun the information which I wanted to tell them in between the music broadcasts. And, students listened to them.

I think that this is nothing short of what Carnegie wanted to tell us. The situation would not have changed if we had not asked the students what they wanted. I learned this. It is important to know about what other people want when we ask them for something. I think the problem of the American military bases in Okinawa is fundamentally the same as that. Not being directly connected with the solution, I think that the government should hear the wishes of the Japanese people more in "good faith." I firmly believe that there are no other choices. When you ask other people for something, or you want to influence other people, please remember these words of Carnegie, "Become genuinely interested in other people."

皆さんは、沖縄基地問題のニュースを知っていますか？これは、国の防衛に関わる問題です。しかし、人々はたくさんの考えを持っているので、まだ解決の糸口は見つかっていません。私は最近読んだこのデール・カーネギーの本にこの問題の解決の鍵となるものがあると思いました。この本は、どうやって人を影響させるか私達に伝えています。デール・カーネギーは"ほかの人々に興味を持ちなさい"といいました。この言葉は、私を強く感動させました。

私は小学6年生の時、放送委員長をしていました。私達放送委員は、生徒に放送で学校活動や委員会などの情報を昼食後に伝えていました。私ははじめみんなに"放送をきいて"と一生懸命に頼みました。しかし、みんな友達とのおしゃべりに夢中で誰もきいてくれませんでした。だから私は放送委員と相談をし、全生徒にアンケートをしました。そのアンケートは、みんなが放送でききたいものは何かということを尋ねるものでした。私達はみんなが放送で気に入っている曲をききたいということがわかりました。そして私達はみんなが好きな曲を放送で流し始めました。その結果、みんなが放送をきいてくれるようになりました。次に私達は、私がみんなに伝えたかった情報を曲の間に流しました。そうしたら、ほとんどの生徒達がその情報をきいてくれるようになりました。私は、カーネギーがこのことを伝えたかったのだと思います。もし私が放送で何をききたいのかということを聞かなければ、状況は変わらなかったでしょう。私は、他の人を動かすためには、ほかの人々が何を望んでいるのかを知ることが大事だと学びました。沖縄基地問題もこれと同じだと思います。直接解決にはつながりませんが、政府は誠意を持って沖縄の人々の願いを聞くべきだと思います。私は、これ以外に選択肢はないと思います。あなたが人に何かを求めるとき、もしくはほかの人々を動かしたいときは、カーネギーの言葉を思い出してください。"ほかの人々に興味をもちなさい。"

3. 成果と課題

以下のデータは平成23年度の春に行われた島根県の学力調査の結果である。ここで注目したいのは、太い線で囲んだ「無回答（無記入）の場合」の割合の低さ（3%以下）である。OECD（経済協力

開発機構)のPISA調査の結果からも、日本は諸外国に比べ無回答(無記入)が多く見られたという報告があった。3年間、生徒自身が発信したいと思う課題設定を行った結果、本校の生徒は、どうにかして自分のもっている知識(情報や英単語、英文法)や技能を活用して、発信しようとしていることが伺える。

課題として、3年間の取組の見直しが挙げられる。統合的な活動を意識して、聞いたことを受けて発信する(書く、話す)活動や話したことを書く、書いたことをスピーチにして話す活動を繰り返し行ってきた。今後は、読むことに関連付けた統合的な活動を繰り返し行っていききたい考える。また、そうすることでの効果や評価についても今後研究を進めていきたい。

出題のねらい	正答条件/解答内容	解答類型(定義)	正誤	反応率	
				県	校内
Whatやto不定詞を使って、相手の希望をたずねる文を書くことができる。	相手に「何が食べたいか」たずねる文を、英語で正しく書いている。 (※つづりの誤り1箇所は許容)	(例)What do you want to eat[have]?	○	14.1	68.2
		(例)What do you eat[have]? (want toが抜けている場合)	△	17.0	9.8
		軽微な誤りや2箇所以上のつづりの誤りがあるが、正答例と同じ意味が伝わる場合。	△	5.4	5.3
		上記以外の解答	×	44.5	14.4
		無解答(無記入の場合)	×	18.9	2.3
未来形(be going to/will)の疑問文を書くことができる。	相手に「明日、英語の勉強をするつもりか」たずねる文を、英語で正しく書いている。 (※つづりの誤り1箇所は許容)	(例)Are you going to study English tomorrow?	○	33.6	71.2
		軽微な誤りや2箇所以上のつづりの誤りがあるが、正答例と同じ意味が伝わる場合。	△	11.5	10.6
		上記以外の解答	×	38.5	16.7
		無解答(無記入の場合)	×	16.5	1.5

出題のねらい	正答条件/解答内容	解答類型(定義)	正誤	反応率		
				県	校内	
自分の住んでいるところを記述した後、既習の語彙や文法を駆使して、地域を紹介する文を書き表すことができる。	I liveに続けて、「in+地名」を、英語で正しく書いている。	(条件通り)	○	73.6	93.2	
		inが抜けている場合など。	△	11.6	3.8	
		上記以外の解答	×	1.0	0.0	
		無解答(無記入の場合)	×	13.8	3.0	
	「場所の特色」を、英語で正しく書いている。(※内容に誤解を生じない限り、つづりの誤りや軽微な誤りは問わない)	(条件通り)	○	50.0	92.4	
		小さな文法的な誤りがあるが、「場所の特色」が伝わる場合。	△	14.6	3.8	
		上記以外の解答	×	21.6	0.8	
			無解答(無記入の場合)	×	13.8	3.0
	内容のつながりが良く、3文以上書いている。(※内容に誤解を生じない限り、つづりの誤りや文法的な誤りは問わない)	3文つながり良く書かれている場合。	○	37.3	22.0	
		4文以上、つながり良く書かれている場合。	○	26.1	73.5	
3文以上書かれているが、つながりが良くない場合。(例 ほぼ同一の文の羅列など)		△	0.7	0.0		
上記以外の解答		×	22.1	1.5		
無解答(無記入の場合)		×	13.8	3.0		

(すだ かおり 英語科 k.a.suda@edu.shimane-u.ac.jp)